



海外における日本語教育

ジャパンファウンデーションの海外日本語教育機関調査（2003年）によると海外の日本語学習者は127の国や地域で約235万名。

しかし、これはあくまで教育機関で学んでいる人の数で自学・自習している人の数を加えるとその数倍が予測されます。

こうした日本語学習熱の高まりを受け、日本語教師、教育機関や学習者への支援、専門家の派遣、日本語能力試験の実施や教材の開発・提供など海外における日本語教育・学習に対して多様な支援を行っています。

日本語教育懇談会、外務大臣に提言を提出 「今こそ、世界に開かれた日本語を」

「日本語教育懇談会」は、ジャパンファウンデーションによって2006年5月に設置。以来、3回の全体会議と5回の専門部会において、日本語教育の現状と展望について有識者による幅広い意見の交換が行われました。その成果として、2007年2月28日に、「今こそ、世界に開かれた日本語を—教育、普及体制の強化を訴える」と題した提言が麻生太郎外務大臣あてに提出されました。

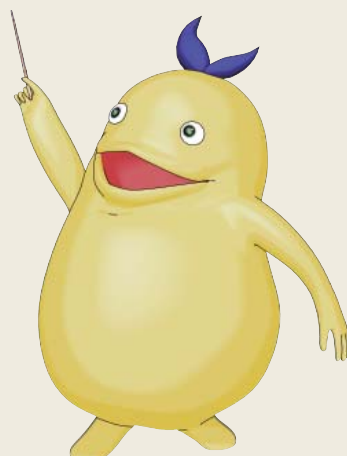
提言では、グローバル化や多文化共生が進む国々では時宜を得た言語教育政策の施行が必要であり、日本語教育においても官民協調によるコンソーシアム（日本語教育推進協議会）を通じた抜本的かつ戦略的な対策が急務であることが述べられています。



エリン



N21-J



ホニゴン

『エリンが挑戦！ にほんごできます。』 語学に加え日本の文化も、楽しく覚える、やさしく学べる

楽しく学べる映像教材

『エリンが挑戦！ にほんごできます。』は、日本語国際センターが制作した新しい映像教材です。外国人対象の初級日本語講座で、25回のスキット（ミニドラマ）などから構成されています。

新進俳優が演じる学園ドラマ仕立てのスキットは、日本の高校にやってきた留学生エリンが主人公。日常生活で遭遇するさまざまなできごとをクリアしながら、日本語を使って自分の目的を達成できる（CAN-DO）ようになっていきます。

一方、アニメキャラクターのエリンは、先生役のホニゴンやデータロボット N21-J といった親しみやすいキャラクターとともに、スキットをもとにしたキーフレーズの学習・解説をするほか、各コーナーのガイド役も務めます。

若い世代の学習者が対象

ジャパンファウンデーションが2003年に実施した日本語教育機関調査によると、235万人以上の海外の日本語学習者の半数以上が高校生以下の若い世代です。

『エリンが挑戦！ にほんごできます。』は、日本語を学んでいる海外の高校生1,100名に対する「どんな映像教材を望むか」というアンケートからスタート。その結果を内容・構成に十分に反映させ、若い学習者のニーズにマッチした、楽しみつつ初級レベルの日本語や日本文化を学べる映像教材となっています。

言葉だけではなく文化理解も

『エリンが挑戦！ にほんごできます。』の大きな特徴のひとつが、日本語学習とともに文化理解にも重点を置いていることです。そしてそこでは、単に日本文化を見せるだけでなく、学習者自身が自分の文化と比較したり、文化の背景にあるものを考察するきっかけとしたりするよう工夫されています。

また、世界各地の日本語学習者や日本語を使って仕事をする人々も紹介。学習の励みになり、新たな目標設定につながっています。

NHK 教育ほかで放映、DVD 教材も発行

映像教材『エリンが挑戦！ にほんごできます。』は、国内ではNHK教育テレビを通して、海外ではNHKワールド、NHKワールド・プレミアム、テレビジャパンを通じて放映されました（全25回。2006年10月～2007年3月。2007年4月から再放送）。また、全3巻のDVD教材として、2007年7月より凡人社から発行されています。



エリン(中央)とその友人たち

日本語能力試験

全世界 47 カ国・地域、147 都市で、約 44 万名が受験しました。

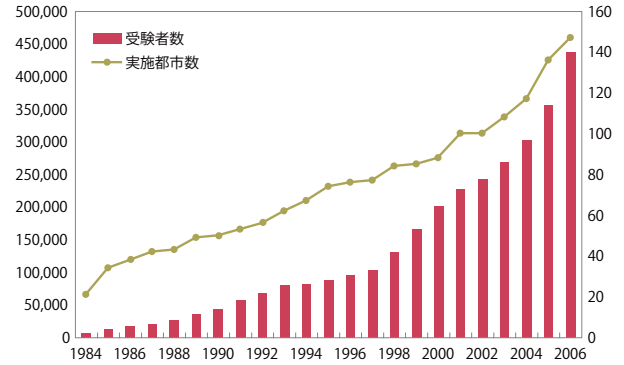
日本語能力試験は、日本語を母語としない方々を対象に、日本語能力を測定し、認定することを目的として、1984 年度より、ジャパンファウンデーションが海外各地の試験実施団体との共催により実施しています（日本国内においては財団法人日本国際教育支援協会が、台湾においては財団法人交流協会が実施）。

日本語能力試験は、1 級（900 時間程度の学習レベル）、2 級（600 時間程度の学習レベル）、3 級（300 時間程度の学習レベル）、4 級（150 時間程度の学習レベル）の 4 つの級に区分されており、受験者は自己の日本語能力に適した級を受験することができます。各級とも「文字・語彙」、「聴解」、「読解・文法」の 3 科目から構成されています。

2006 年度の日本語能力試験は、12 月 3 日（日）に全世界一斉に実施されました。23 回目となった今回、海外では 46 の国・地域、127 都市において実施され、日本国内実施分（20 都道府県）と併せた全体の応募者数は 53 万 3 千名、受験者数は 43 万 7 千名にのびりました。

※日本語能力試験ひろば
<http://momo.jpf.go.jp/jlpt/home.html>

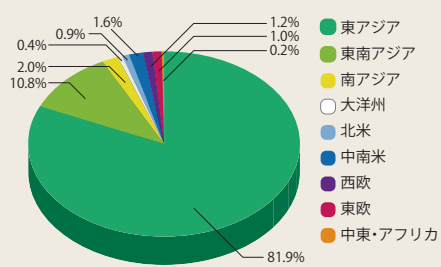
日本語能力試験 受験者数と実施都市数



2006 年度 受験者数上位 10 カ国・地域

順位	国・地域	受験者数
1	中国	165,353
2	韓国	70,495
3	<台湾>	49,571
4	<香港>	12,221
5	タイ	11,861
6	ベトナム	8,045
7	インドネシア	7,108
8	インド	5,366
9	シンガポール	3,712
10	ブラジル	2,914
	海外計	364,480
	日本国内	72,880

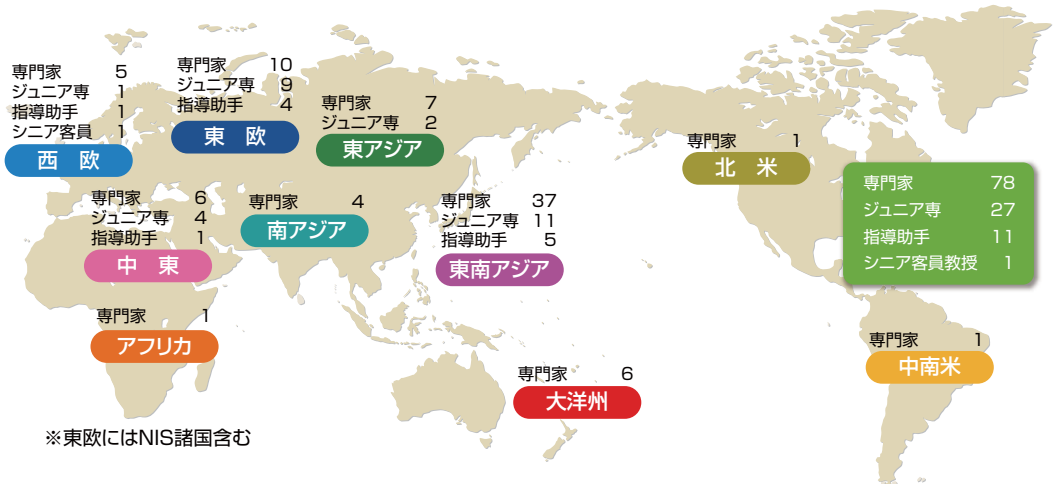
2006 年度 受験者数地域別構成比（海外）



日本教育専門家等の海外派遣

各国のジャパンファウンデーション事務所、教育省、中等・高等教育機関などに日本語教育専門家、ジュニア専門家、日本語教育指導助手やシニア客員教授（後者 2 つはいずれも JF ボランティア制度の一環）を派遣。日本語教師研修、カリキュラムや教材開発、教授法・教材制作などの助

言や授業を通し、日本語教育の普及・発展に寄与しています。また、国際協力機構と協調しながら、各地の日本人材開発（協力）センターの日本語教育部門においても、日本語教育専門家は大きな役割を担っています。





日本語国際センター

日本語学習者の変化に伴い、きめ細やかな支援を

1989年7月に、ジャパンファウンデーションの附属機関として埼玉県さいたま市に設立された日本語国際センターでは、海外日本語教師の研修、および日本語教育の将来のリーダーとなる人材の養成、日本語教材の開発・制作支援・寄贈、日本語教育専門図書館の運営などの事業を実施しています。

研修事業

3週間から9カ月の期間で、毎年50カ国を超える国や地域から約500名の海外の日本語教師が参加しています。日本の学校訪問、歌舞伎などの伝統芸能鑑賞など、教室内の学習にとどまらない研修内容が実践的だと好評を得ました。

研修参加者の声を紹介します



バンダ・ナビン・クマール氏
(インド、デリー大学東アジア研究科講師)
2006年度「日本語文化研究プログラム
(博士課程)」参加

これまで日本語国際センターの3つのプログラムに参加しました。最初は、2001年1月に参加した海外日本語教師短期研修プログラム(冬期)です。次は、2001年9月に日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)の第1期生として入学しました。一番よかったのは私と同じ考えを持った5カ国の人々と一緒に勉強し、世界での日本語の普及について語り合う機会を持てたことです。

インドでは中等教育分野に日本語教育が導入されたばかりという状況です。私もインド中等教育委員会が設立した日本語教科書作成タスクフォースに入り、6年生と7年生向けの日本語教科書を作りました。そのプロセスにおいて様々な問題点を認識し、インド中等教育での日本語教育をより効果的に行うために、今回、センターの博士課程に入り、「インド中等教育における外国語政策としての日本語教育」について研究しています。博士課程の論文でインド、そして世界の日本語教育に少しでも貢献することができたら幸いです。



ターライベク・キズ・ジャーナルクリ氏
(キルギス共和国、アラバエフ名称キルギス国立大学、日本語教師)
2006年度「日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)」参加

来日は2006年9月で2回目。1回目は2001年度の「海外日本語教師研修(長期)」の研修生としてでした。

この一年間で日本語国際センター、国立国語研究所、政策研究大学院大学によって実施された授業に参加し、日本語教授法、研究の方法、言語学、日本の社会・文化についての貴重な知識を身につけたと思います。また、センターのプログラムや教室外の授業で実際に日本の社会や文化に触れることもできました。

日本語国際センターは、世界の国々から来た研修参加者が日本語を通してお互いの文化の交流ができる素晴らしい所です。世界の文化の接触、国と国に間に友好の橋が建えられる場であると言ってもいいでしょう。

この交流で、世界の日本語教育のレベルが全体的に高くなってきたと感じました。その中でキルギスにおける日本語教育も負けずに発展していくために、頑張っていきたいと思っています。

制作事業

●日本語教師必携 すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖

「レアリア」とはもともと、「本当の物」という意味で、ラテン語に由来しています。この本では、それを教育の現場で利用する方法を紹介しています。たとえば食品パッケージ、路線図、ファッション雑誌といった「レアリア・生教材」を通して、日本語だけでなくその背景にある文化や社会事情までも学べるよう意図されており、とくに海外の日本語教育者にとっては貴重な情報やアイデアが満載です。



(株)スリーエーネットワークより販売。
1,890円

●国際交流基金 日本語教授法シリーズ

時代とともに日本語教育の状況も変化し、日本語教授法に関する研究も発展しています。それを受けて、現在、日本語国際センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直したシリーズ(全14巻)

です。日本語教育の目的や段階に合わせて、経験の浅い先生からベテランの先生までが利用できる、的確な教授法を紹介しています。



(株)ひつじ書房より販売



関西国際センター

多様化した日本語学習者のニーズに対応

海外での日本語学習者数の増加と、学習目的や動機の多様化に対応するために、1997年5月、大阪府泉南郡田尻町に日本語研修施設「関西国際センター」が設立されました。

研修事業

滞在型の研修利点を生かし、海外の様々な国の外交官・公務員や日本研究を行う若手研究者等を日本に招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行っているほか、海外の日本語学習者を奨励する日本語学習者訪日研修を実施しています。

また、地域における国際交流の推進のため、周辺地域の自治体、NPO等の機関と協力して、研修生と地域の人々との様々な交流事業を実施しています。

研修参加者の声を紹介しす

(研修生が自分で書いた感想文をほぼ原文のまま掲載します)

ノヴァリアナ・タンブナン氏 (インドネシア共和国外務省) 外交官・公務員日本語研修に参加 (2006年10月～2007年6月)

センターで日本語を学んだことは、とても素晴らしく忘れられない経験です。センターには私たちの学習をサポートするいろいろな設備もありました。

興味のある方に言いますが、日本語を学ぶことはチャレンジです。よく知られているように、構文・表記・それに発音も含めて日本語そのものが難しいのですが、それだけではなく、私たちはセンターで日本文化や日本の政治、その他いろいろなことを学びました。特にこの研修は9カ月という長い期間なので、やる気を持ち続けられるかどうかは日本語学習において大事な要素だと思います。ですから「がんばって!!」。

ほぼ9カ月が過ぎ、センターでの研修の成果に驚いています。これは先生方をはじめ、この研修に関わってくださった多くの方々のおかげで、心より感謝いたします。最後に、一緒に日本語を勉強するという素晴らしい経験をさせてくれた世界中の友人に、「みんながいなければできなかった」と言いたいと思います。

トミ タパナイネン氏 (フィンランド トゥルク大学 (博士課程)) 研究者・大学院生日本語研修 (8カ月コース) に参加 (2006年10月～2007年5月)

日本でのプログラムですから、日本語の学習は自国よりずっと効果があると思います。授業で練習した言葉や文法を実際に使ってみるきっかけが頻繁にあります。更に、研修生の皆さんの個人的な能力にあった授業に通うことが出来て、自分のレベルに相応しい教育ばかりではなく、本当に自分の長所も短所も分かるようになりました。

センターは「揺りかご」の役割をしています。そこから出て、本当の日本を体験することは日本の社会を理解するために一番おススメの方法です。一人でも冒険出来ますが、やはり友達と一緒にならより面白くなります。京都や奈良をはじめとして姫路や広島までのバスツアーに参加することで、日本の豊かな歴史を個人的に感じる事が出来ました。

オスカル アルベルト カスタニェダ氏

(メキシコ モンテレイ工科大学)

キム ウィオレッタ ロマーノブナ氏

(ロシア サハリン国立大学)

日本語学習者訪日研修(大学生/春季コース)に参加 (2006年5月～2006年6月)

このプログラムは、日本に関する全部のものを体験する機会をあたえているのです。日本語の知識をひろげながら、日本の文化や習慣や社会などについての新しい情報をたくさん調べました。そして毎日ほかの国から来た学生と日本語で話すチャンスももらいました。そればかりか、友情が強くなりました。それに授業であたたかいふんいきが作れたし、いつもたすけてくれた先生のおかげで、日本語で自分の意見を出すために自信がもてるようになりました。

日本にいる間、いろいろ体験すればするほど、日本についていろいろなことが明らかになりました。私たちは日本に来る前に本やテレビだけによって知っていたことを自分で体験しました。あるものはよそうされたとおりでしたがあるものには時々びっくりしました。いずれにしても毎日日本について感動していました。



10月田尻町秋祭りにて、地元の人々と交流



自分の肌で感じる大阪は“おいしい”

日本語教育事業概観

①日本語教育情報交流

下記の日本語教育関係資料・情報を提供（ウェブサイト、JFICライブラリーなどで閲覧できます）。

①「日本語教育通信」55～57号

海外の日本語教師および学習者を対象に、教材情報、授業のアイデア、日本事情や日本語教育情報等を提供（ウェブサイト、紙冊子、PDF版およびウェブサイト限定記事を公開）。編集・発行、日本語グループ。



②「国際交流基金日本語教育紀要」3号

ジャパンファウンデーションの日本語教育事業に携わる専門家等の研究論文、事業報告などを掲載（ウェブサイトでPDF版を公開）。編集・発行、日本語事業部企画調整課。



③「日本語教育論集 世界の日本語教育」16号

世界の日本語教育、日本語学の研究論文、実践・事情報告を掲載する専門公募論文誌（ウェブサイトで全論文の要旨および全文PDF版を掲載）。JFICライブラリー・(株)凡人社等で販売。2200円。



④日本語教育国別情報

海外における日本語教育の実施状況、教育制度、教科書、シラバス、教師および学習者に関する情報などをウェブサイト上で紹介。

⑤2005年度 日本語教育スタンダードの構築をめざす国際ラウンドテーブル会議録

日本語教育スタンダード（仮称）の構築をめざし、2005年度に3回にわたり主催した、国際ラウンドテーブルの会議資料ならびに会議録をとりまとめ、報告書として発行（ウェブサイトでPDF版を公開）。編集・発行、日本語事業部。



⑥海外日本語教育機関調査

全世界の日本語学習者、日本語教師、日本語教育機関に関する定期的調査。最新の調査は、2006年度に実施（調査結果は2007年度に発表）。

⑦弁論大会・シンポジウムの開催

第47回「外国人による日本語弁論大会」を開催しました。また、有識者による「日本語教育懇談会」を開催し、外務大臣に提言を行いました。

⑧日本語教育専門家派遣

海外の日本語教育の中核となる日本語教育機関に対して、以下の通り、日本語教育専門家、ジュニア専門家、日本語教育指導助手、日本語教育シニア客員教授を派遣しています。

1 日本語教育専門家	36カ国	78件
2 ジュニア専門家	15カ国	27件
3 日本語教育指導助手	9カ国	11件
4 日本語教育シニア客員教授	1カ国	1件

⑨日本語教育機関支援・日本語教育プロジェクト支援など

海外の日本語教育の中核となる日本語教育機関や日本語教育学会、日本語教育NGOが行う学会、弁論大会、講座などに対して助成を行いました（146件）。

⑩日本語能力試験（→18頁）・年少者インターネット試験「インターネット日本語しけん すしテスト」

<http://momo.jp.f.go.jp/sushi/>

ジャパンファウンデーションが海外の日本語入門レベルの年少者を対象としたインターネット上のテストとして独自に開発したもので、2004年3月に公開されました。

ユーザー登録すれば、無料で何度でもテストが受けられます。絵を見たり、音を聞いたりして答えを選ぶなど3つのパート29問を30分以内に答えると、得点に応じて「すし」を握ってもらえます。

⑪日本語教育フェロウシップ

海外の日本語教育機関が行う教材・教授法・カリキュラム等の開発に協力するため、10カ国より13名の日本語教育専門家をフェロウとして招へいしました。

⑫日本語教材制作（→19頁）

「みんなの教材サイト」<http://momiji.jp.f.go.jp/kyozai/> を運営。

海外の日本語教育の教材、副教材、辞書等を出版する13カ国の機関に対して、制作費の一部助成を15件行いました。

⑬日本語教材寄贈

世界100カ国1,028の日本語教育機関に対し、現地では入手しにくい日本語教材を寄贈しました。

⑭日本語国際センターにおける海外日本語教師研修など

海外の日本語教師を招へいして、日本語教授法研修、共同研究等を実施しました（485名）。

⑮関西国際センターにおける研修

職務や専門の上で日本語を必要とする専門家や海外の日本語学習者を招へいして、それぞれのニーズに応じた日本語研修を実施しました（465名）。